

相談支援の展開と視点

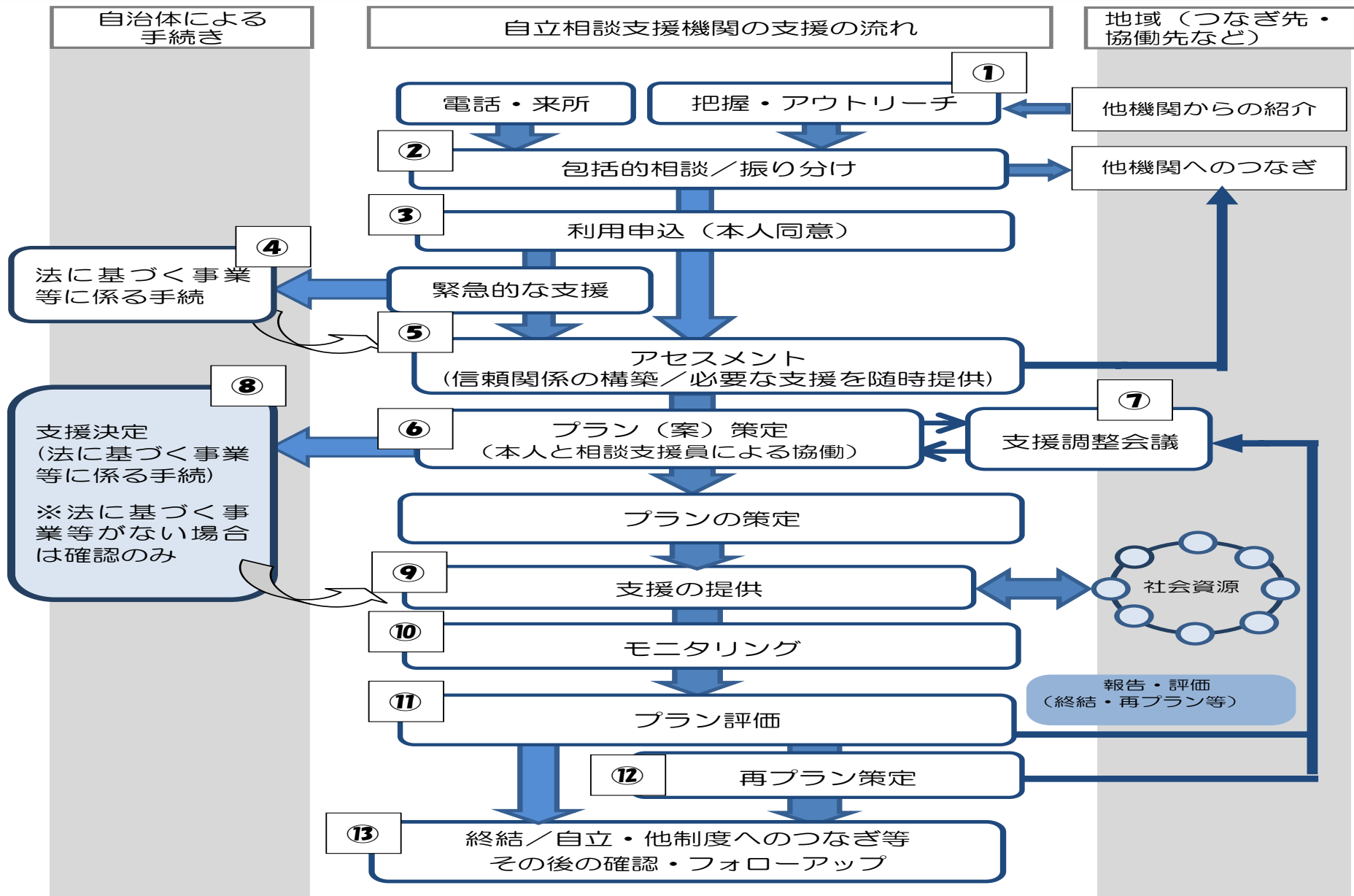
<研修全体の目標>

- ①基本を学ぶ
- ②学んだことを実践できる
- ③伝達できる(講師になれる)

「相談支援の展開と視点」のポイント

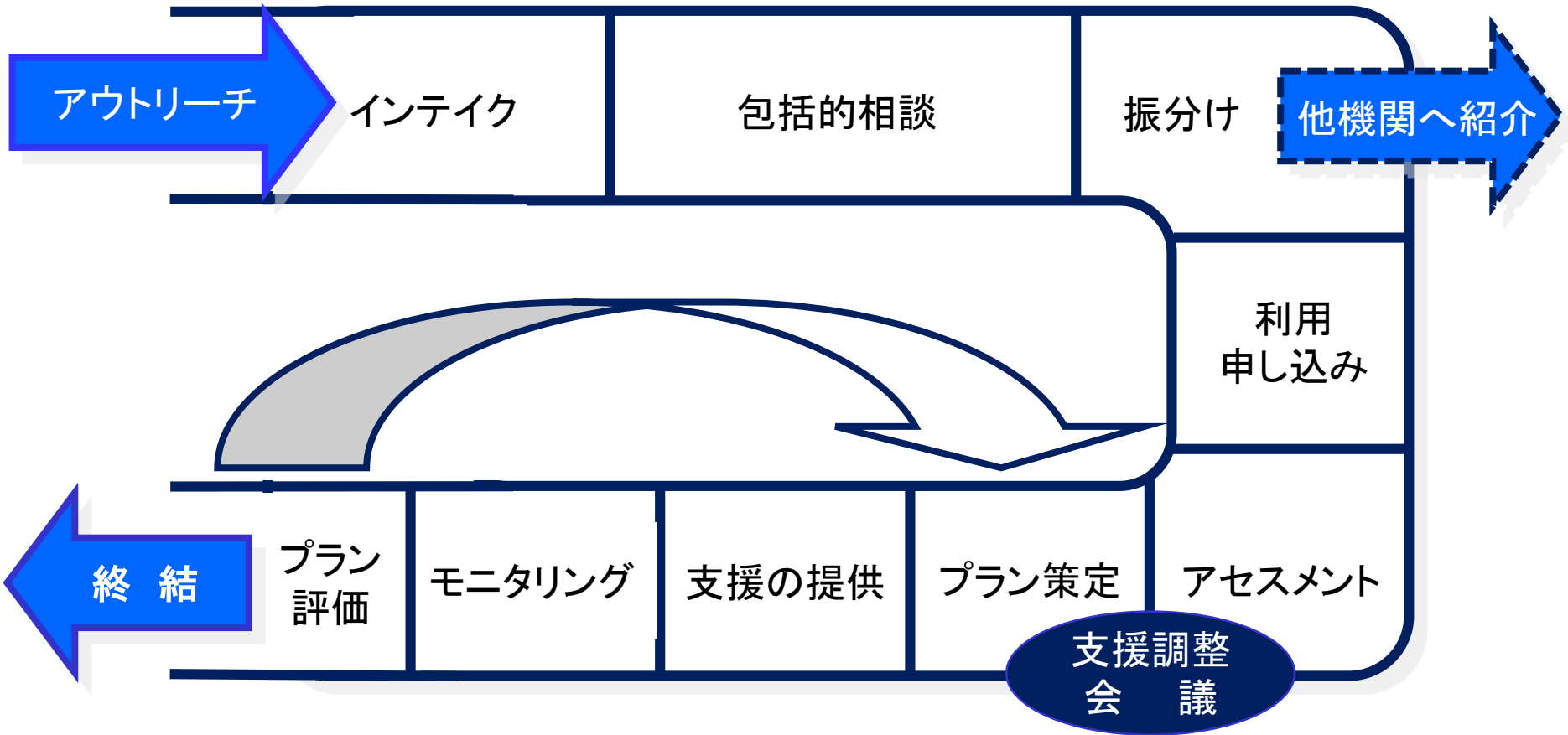
- ①相談支援の展開について基本的な流れ、構図を理解する。
- ②実践(事例)を通して支援の視点を理解する。
- ③本事業における終結を理解する。

相談支援プロセスの流れ



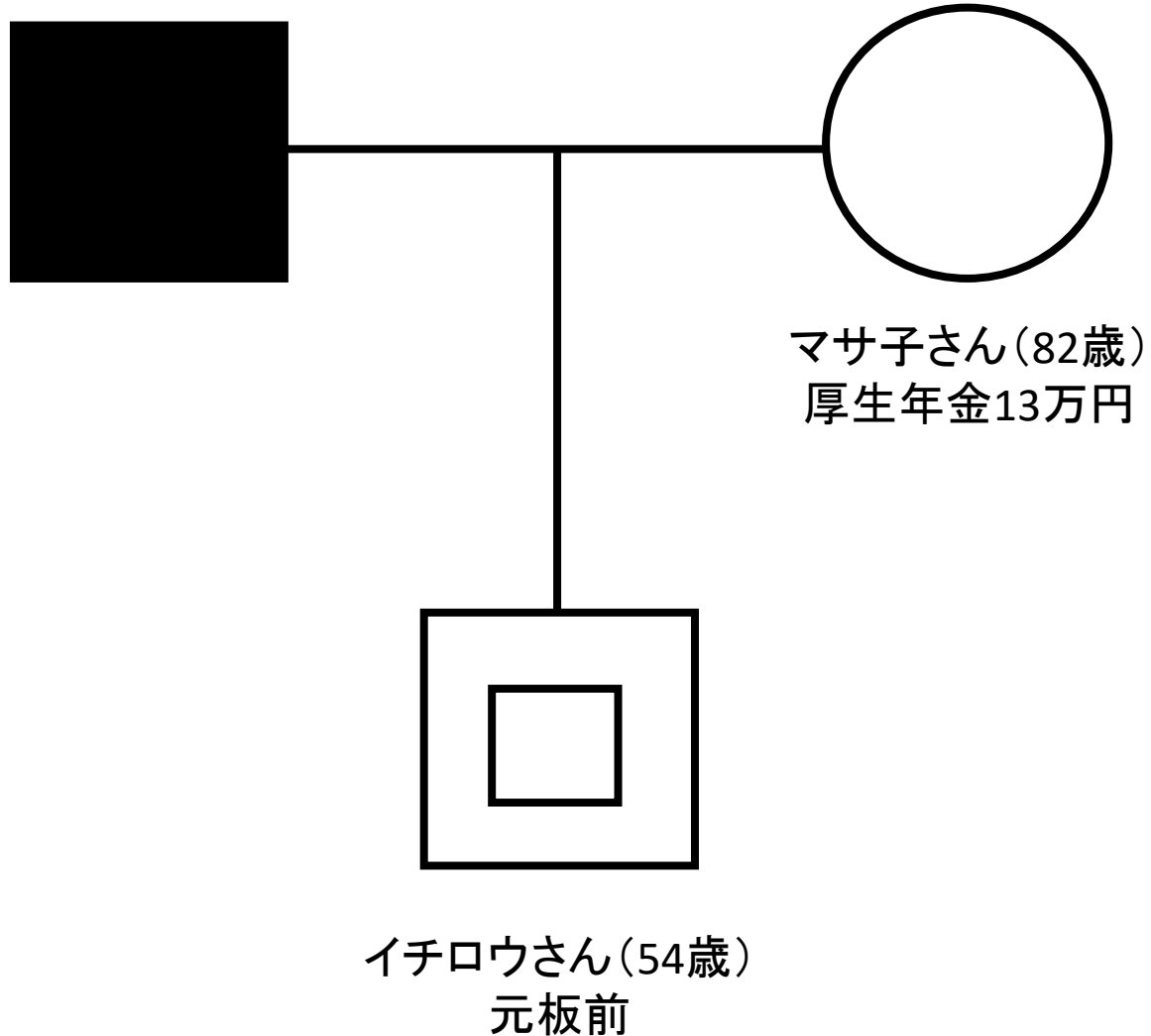
図の中央は、自立相談支援機関が行う相談支援業務の流れ、左は自治体が行う手続等、右は地域における社会資源に求める役割を示している。

相談支援プロセスの流れ(簡略版)



实践事例

事例シート1 (把握・アウトリーチ・相談受付)



事例シート2 (アセスメント・プラン作成)

平成29年度 自立相談支援事業従事者養成研修【前期】共通カリキュラム 「相談支援の展開」

(事例シート1)

82歳の母親(マサ子さん)と54歳の息子(イチロウさん)は、持ち家で二人暮らしである。

マサ子さんは足腰が弱り、一人でトイレに行くこともままならない状態にある。ゴミ捨てや買い物に出かけるマサ子さんの姿を見かけなくなったことを心配した近所の人々がマサ子さん宅を訪れた際、そのことを知って民生委員に連絡した。

民生委員が訪問すると、「私のことはほっておいて。とにかく息子のことが一番心配なの。息子のために一日でも長く生きていくしか方法がない」と涙ぐむ姿を見せた。以前は、近隣住民とのつきあいがあったが、今ではほとんどない。庭木の手入れもできず、うっそうとしている。

息子のイチロウさんは、以前は板前をしていたが、2年半前にリストラされて実家に戻った。現在、収入はない。最近では再就職に向けた活動もまったくしておらず、マサ子さんの厚生年金で生活している様子で、朝からお酒を飲んでいることも多い。近所の人と会うことを避け、たまに会ったときに声をかけると、にらみつけられるので、みんな怖がっている状態である。また、イチロウさんが野良猫に残飯を与えるので、猫がたくさん集まってきて、近隣からは苦情が出ている。

民生委員から自立相談支援機関に連絡が入り、この世帯へのかかわりが始まった。

平成28年度 自立相談支援事業従事者養成研修【前期】共通カリキュラム 「相談支援の展開」

(事例シート2)

自立相談支援機関の相談支援員は、民生委員と一緒にマサ子さん宅を初回訪問し、その後5回訪問した。マサ子さんは1階で、イチロウさんは2階で暮らしているようだった。1階は窓を閉め切って薄暗く、物が散乱している様子であるが、マサ子さんはそれなりに清潔な身なりをしている。マサ子さんは相談支援員に「部屋が散らかっていてごめんなさい」と話した。

この間の訪問のなかで、マサ子さんは少しずつ息子のイチロウさんのことについて話し始めた。イチロウさんが実家に戻ったのはリストラされたことだけでなく、高齢のため一人暮らしがおぼつかなくなった母親を心配してのこともあること。イチロウさんは食事や買い物など母親の生活に気遣いをみせてくれているが、仕事探しがうまくいかず、だんだん気持ちが悪くなってきて、最近は飲酒の量も増えてきたこと。亡くなったマサ子さんの夫がアルコール依存症で、暴力をふるうこともあったことから、イチロウさんはずっと父親に反発してきたが、結局、息子も同じ様になってしまうのではないかとマサ子さんは心配していることなどが明らかになった。

ある日の訪問の際、買い物に出ていたイチロウさんが帰宅してきた。イチロウさんは、母親に会いに来る相談支援員のことを気にしていたようで、マサ子さんの部屋をのぞき、「母がお世話になっています」と頭を下げた。イチロウさんは、無精ひげが伸び、顔色もすぐれない。ジャージ姿で、体格がいいこともあり、人に威圧感を与える印象がある。しかし、マサ子さんに「昼のおかず、テーブルの上に置いておくから」と声をかける表情は穏やかで、親子が互いに思いやっている様子もうかがえる。

相談支援員が、イチロウさんにお会いできてうれしいことを伝え、またお会いして話がしたいと言うと、最初は「僕の話は結構ですから」と拒否された。しかし再度、お母さんのことも心配だし、いろいろと話をしながらできることを一緒に考えたいと伝えると、「来てもいいけど、僕は役所とかの人は信じられないんだ。前に相談に行ったんだけど、いやな思いをしたからね」と強い口調で話した。

事例シート3 (支援の実施・モニタリング)

【ワーク】

事例シート3をもとに、帳票の「課題と背景要因」

「課題のまとめと支援の方向性」を記入してみま

しょう。

平成29年度 自立相談支援事業従事者養成研修【前期】共通カリキュラム 「相談支援の展開」
(事例シート3)

初回訪問から2か月後、マサ子さんが玄関先で転倒し、左手首を骨折した。この間、相談支援員は2週間に1回の頻度で訪問し、主にマサ子さんと面談してきた。その過程では、イチロウさんを交えて面談する機会も何度か得ることができた。

マサ子さんの骨折を機に、マサ子さんには地域包括支援センターのスタッフが主にかかわることになり、相談支援員はイチロウさんと世帯の今後について個別に話を進めることになった。

家庭訪問による面談をとおして得られた情報は、次のとおりである。

○マサ子さんのADLはかなり低下している。特に、膝に痛みがあり、掃除や洗濯等の家事も相当厳しくなっている。息子のイチロウさんは、マサ子さんの食事の世話はしているが、その他の家事については、自分の分しかしていない。

○マサ子さんの老齢年金は月額13万円程度。年金の管理はマサ子さんがしている。持ち家で住民税等の滞納はない。イチロウさんには収入がないことから、イチロウさんはマサ子さんから週に一回程度、1万円の食費を受け取り、自分と母親の分の食材を購入している。以前、板前をしていたことから調理はできるはずであるが、最近ではコンビニでお弁当を買うことがほとんどである。その食費から自分が飲むお酒も買っている。

○イチロウさんが就職活動をまったくしなくなり、家にひきこもりがちになってから約1年が経過する。母親以外と接することはほとんどない。相談支援員と話するときもいつも横を向いていて、目を合わせようとしない。「面接でなんども落とされてもういやになった。料理人以外の仕事もしようと思ったがこの年齢になると仕事はないね」と話す。

○「母親のことも心配だし、仕事のことこのままではいけないんだろうけど、もう何も考えたくない。お酒を飲むと気が紛れるんだ」とイチロウさんは話す。実際、毎日ではないようだが朝から焼酎を飲んでいることが多い。

○イチロウさんに「役所でのいやな思い」について尋ねると、「働いていないことについて、上から目線でバカにされた。詳しくは言いたくない」と話す。辛抱強く話を聞いていったところ、「就職活動をするお金もないから何か援助が受けられないか相談に行ったら、いろいろ質問された。聞かれたことがわからなかったから聞き直したら、面倒くさそうに大声で年寄りに言い聞かせるように繰り返された。あんな対応をされたら、だれでも嫌になるでしょ」と話してくれた。

○「貯金が少しあったんだけどね、仕事が決まらないうちに使い切ってしまって。だからと言って、母親に小遣いももらってまで就職活動をする気にはならないよ」と話した。相談支援員が、すぐに応募できるポスティングのアルバイトがあり、週払いの交渉もできると話すと、初めて目を合わせ、「詳しく教えてほしい」と身を乗り出した。

アセスメントのポイント

①現状の査定

②背景の理解

③当面の課題の焦点化

<p>課題と 背景要因</p>	
<p>※課題のまとめ と支援の方向性 (300字以内 で整理)</p>	
<p>※チェック 項目</p>	<p> <input type="checkbox"/>病気 <input type="checkbox"/>けが <input type="checkbox"/>障害（手帳有） <input type="checkbox"/>障害（疑い） <input type="checkbox"/>自死企図 <input checked="" type="checkbox"/>その他メンタルヘルスの課題（うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など） <input type="checkbox"/>住まい不安定 <input type="checkbox"/>ホームレス <input checked="" type="checkbox"/>経済的困窮 <input type="checkbox"/>（多重・過重）債務 <input type="checkbox"/>家計管理の課題 <input checked="" type="checkbox"/>就職活動困難 <input type="checkbox"/>就職定着困難 <input checked="" type="checkbox"/>生活習慣の乱れ <input checked="" type="checkbox"/>社会的孤立（ニート・ひきこもりなどを含む）<input checked="" type="checkbox"/>家族関係・家族の問題 <input type="checkbox"/>不登校 <input type="checkbox"/>非行 <input type="checkbox"/>中卒・高校中退 <input type="checkbox"/>ひとり親 <input type="checkbox"/>DV・虐待 <input type="checkbox"/>外国籍 <input type="checkbox"/>刑余者 <input type="checkbox"/>コミュニケーションが苦手 <input type="checkbox"/>本人の能力の課題（識字・言語・理解等） <input type="checkbox"/>被災 <input type="checkbox"/>その他（_____） </p>

【2】 インテーク・アセスメントシート【スタッフ使用】

〈DB 入力(付随シート以外)〉

インテーク・アセスメントシート

ID		氏名	イチロウさん	最終更新日	平成××年×月××日
----	--	----	--------	-------	------------

サブ区分 フラグ		関連ID		備考	
-------------	--	------	--	----	--

■相談経路・相談歴

※当初 相談経路	<input type="checkbox"/> 本人自ら連絡(来所)	<input type="checkbox"/> 本人自ら連絡(電話・メール)
	<input type="checkbox"/> 家族・知人から連絡(来所)	<input type="checkbox"/> 家族・知人から連絡(電話・メール)
	<input type="checkbox"/> 自立相談支援機関がアウトリーチして勧めた	
	<input checked="" type="checkbox"/> 関係機関・関係者からの紹介(関係機関・関係者名: ××地区民生委員 ○○さん)	
	<input type="checkbox"/> その他()	
これまでの相談歴の有無(本人や家族に過去にどこかの機関への相談経験があるかを確認)		
<input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> あり		
相談歴の概況/相談経緯(誰が、どこに、どのような相談をしたか、その結果がどうであったかを記載)		
<p>近隣が高齢の母を心配して民生委員に連絡。民生委員が訪問して母から状況を開き、自立相談支援機関につながった。</p>		

■本人の主訴・状況

本人の 訴えや 状況 (生活歴 を含む)	<p>板前として働き、一人暮らしをしていた。3年前にリストラされた際、父はもう亡くなっていて実家には母が一人で生活していたが、高齢になって心配な様子も出てきていたことから、本人も実家に戻って母と二人で生活するようになった。</p> <p>リストラされて以降、就職活動をしていたが、何回も面接を落とされ、調理以外の仕事もあたってみたが、なかなか仕事が見つからなかった。貯金を使い果たした後は、母の年金をあてにせざるを得なくなり、だんだん気持ちが荒んできて、飲酒の量も増えていった。ここ一年ぐらいい就職活動はしておらず、朝からお酒を飲んでひきこもりがちの生活を送っている。</p> <p>以前にお金に困って市役所に相談に出向いたが、一方的に働くように言われて不快感を抱くようになった。このままではいけないと思っているが、何も考えたくない。</p>
----------------------------------	---

【2】 インテーク・アセスメントシート【スタッフ使用】

＜DB 入力(付随シート以外)＞

■本人の主訴・状況(続き)

(1) 家族・地域関係・住まい

※同居者	■有(自分を含んで__2__人) □無	別居の家族	□有() □無
※婚姻	□未婚 □既婚 □離別 □死別 □その他()	※子ども	□無 □有(__人 __扶養 □有 □無)
家族の状況(子どものことを含む)	父はすでに逝去。生前は飲酒が過ぎてアルコール依存症となり、母に暴力をふるうこともあった。本人は父に反発していた。 母：マサ子さん(82歳)。ADLが低下し、家事をすることが難しくなっている。先日、玄関先で転倒し、左手首を骨折、地域包括支援センターが関わることとなった。親子の関係はよく、互いに気遣っている様子がある。		
住居	■持家 □借家 □賃貸アパート・マンション □公営住宅 □会社の寮・借り上げ住宅 □野宿 □その他()	地域との関係	母は近所付き合いをしてきたので、近隣の人たちは母のことを心配している。
特記事項	本人は近所の人と会うことを避け、近所の人本人に声をかけるとにらみつけられるので、みんな怖がっている。本人が野良猫に残飯を与えるので、猫がたくさん集まってきて近隣から苦情が出ている。		

(2) 健康・障害

※健康状態	■良い □良くない/通院している □良くないが通院していない	通院先/服薬・診断・症状等	
健康保険	■国民健康保険 □健康保険(国保以外) □加入していない	障害手帳等	■無 □有一 □身体(__級) □知的(療育)(__) □精神(__級) 自立支援医療 □利用 □利用せず
特記事項	長時間の飲酒が継続されていくと、今後が心配される。		

(3) 収入・公的給付・債務等

家計の収支状況	世帯として 月々入ってくるお金(月額 13万 円) 月々出ていくお金(月額 円)	家計状況	収入は母の厚生遺族年金のみ。
課税状況	□住民税非課税世帯である □住民税非課税世帯ではない	滞納 債務	□滞納あり ■滞納なし □債務あり □債務なし
公的給付(受給中)	□雇用保険 □高齢年金・遺族年金 □障害者年金 □特別障害者手当 □児童手当 □児童扶養手当 □特別児童扶養手当 □住居確保給付金 □その他()	生活保護	
特記事項	年金は母が管理しており、本人は母から週に一回程度1万円の食費を預かって自分と母親の分の食材を購入している。 住民税等の滞納はない。		

【2】 インテーク・アセスメントシート【スタッフ使用】
 (DB 入力(付随シート以外))

■アセスメント結果の整理と支援方針の検討

課題と背景 要因	
※課題のま とめと支援の 方向性 (300字以内 で整理)	
※チェック 項目	<input type="checkbox"/> 病気 <input type="checkbox"/> けが <input type="checkbox"/> 障害(手帳有) <input type="checkbox"/> 障害(疑い) <input type="checkbox"/> 自死企図 <input type="checkbox"/> その他メンタルヘルスの課題(うつ・不眠・不安・依存症・適応障害など) <input type="checkbox"/> 住まい不安定 <input type="checkbox"/> ホームレス <input type="checkbox"/> 経済的困窮 <input type="checkbox"/> (多重・過量)債務 <input type="checkbox"/> 家計管理の課題 <input type="checkbox"/> 就職活動困難 <input type="checkbox"/> 就労定着困難 <input type="checkbox"/> 生活習慣の乱れ <input type="checkbox"/> 社会的孤立(ニート・ひきこもりなどを含む) <input type="checkbox"/> 家族関係・家族の問題 <input type="checkbox"/> 不登校 <input type="checkbox"/> 非行 <input type="checkbox"/> 中卒・高校中退 <input type="checkbox"/> ひとり親 <input type="checkbox"/> DV・虐待 <input type="checkbox"/> 外国籍 <input type="checkbox"/> 刑余者 <input type="checkbox"/> コミュニケーションが苦手 <input type="checkbox"/> 本人の能力の課題(識字・言語・理解等) <input type="checkbox"/> 被災 <input type="checkbox"/> その他()

■スクリーニング

※スクリーニング実施日	平成 年 月 日
※対応結果・方針	<input type="checkbox"/> 1. 情報提供や相談対応のみで終了 <input type="checkbox"/> 2. 他の制度や専門機関で対応が可能であり、つなぐ (必要に応じて、事前連絡や同行支援を実施し、結果をフォローアップする) (一つなぎ先の制度・専門機関:) <input type="checkbox"/> 3. 現時点では本人同意はとれていないが、引き続き同意に向けて取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 4. 自立相談支援機関が継続支援し、プランを策定する <input type="checkbox"/> 5. スクリーニング判断前に中断・終了(連絡がとれない/転居等)
特記事項	

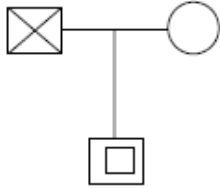
対応重要度	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D
-------	---

【2】 インテーク・アセスメントシート【スタッフ使用】
〈DB入力(付随シート以外)〉

【2】付随シート(紙での使用)

ID		氏名	
----	--	----	--

■家族関係図

家族関係図(□=男性、○=女性)	支援経過における変化
	

■エコマップ(地域や周囲との関係性)

エコマップ	支援経過における変化



自立相談支援事業における
使用標準様式の実用化に向けた
調査研究 **報告書**

平成 27 年 3 月

みずほ情報総研株式会社

(3) 相談支援に係る帳票類標準様式活用の意義について

- 本調査研究では、自立相談支援機関において標準的に使用することとなるアセスメントシート・プランシート等帳票類の標準様式を開発した。
- 相談支援の展開において、帳票類を活用する意義、またそれら帳票類を標準化する意義は下記のように整理される。

帳票類標準様式を活用する意義

1. 法に基づく相談支援機関として適切に判断し必要な手続きを実施するために

自立相談支援機関は生活困窮者自立支援法に基づく機関であり、その相談支援の実施については自立相談支援機関が対象とすべきケースかを適切に判断し、支援実績や継続支援の判断状況について自治体に適宜報告し、支援決定等を得る必要がある。この判断や手続きを適切に遂行することを補助するツールとして帳票類標準様式を活用する。

2. 相談支援の質の確保、向上のために

相談支援員の経験や知識にばらつきがある場合であっても、自立相談支援機関における相談支援の質が一定レベル以上のもとなるように、帳票類標準様式を活用する。標準様式では、相談支援にあたって必要とされるアセスメントの視点や支援方針の検討時に考慮すべき事項の基本的要素を、相談支援のプロセスに沿って示している。

なお、標準様式の使用を基本としつつも、追加的に視点・項目、あるいは様式を加えてアセスメントをより深めたり、支援方針の検討を詳細に行っていくことは、各機関の工夫によって実施されることも考えられ、相談支援の質を高める観点においても推奨される。

3. チームアプローチを支える情報共有の手段として

生活困窮者支援は、支援を要する本人が抱える課題が多岐に及ぶ場合が少なくないため、相談支援については、多様な専門性や視点を持つ支援者が関わるチームアプローチとして展開することが重要である。これは、自立相談支援機関内での相談支援員同士や就労支援員との協働、あるいは他機関・団体との連携等、さまざまな場面で必要になる。このチームアプローチを支える情報基盤として、ケース情報や支援状況について情報共有できる仕組みが必要であり、そのためにはケース情報を記録する様式である帳票類についても標準化したものを活用することが求められる。

4. ケースデータを蓄積して支援対象者の状態像や支援実績、支援による効果を把握するために

自立相談支援機関は、公費を用いて運営する機関として、どのような対象者に対してどのような支援を実施しているか、支援の実績はどうか、また、支援による効果はどのようにみられているか等について把握し、対外的に説明する責任(アカウンタビリティ)を持つ。この説明責任を果たすにあたって基礎的なデータを把握するために、標準様式を用いて自立相談支援機関が支援するケースに関わるデータを蓄積することが求められる。また、蓄積したデータを分析することで、支援対象者の状態像や特徴をあきらかにして自立相談支援機関の体制の見直しやノウハウの開発に生かしたり、生活困窮者に関わる施策の検討に生かすことも可能になる。

4)「課題のまとめと支援の方向性」を導き出すためのポイント

- 「課題のまとめと支援の方向性」を導き出すための実践上のポイントを下記に整理する。

「課題のまとめと支援の方向性」を導き出すための実践上のポイント

■援助関係の構築及び本人の主訴と取り巻く状況の正確な把握

自立に向けた本人の取り組みを相談支援員が支えていくにあたって、まずは支援の基盤として、本人と相談支援員との間に信頼関係に裏打ちされた援助関係を築くことが重要である。援助関係の構築は、本人の主訴や本人を取り巻く状況を正確に把握することと深く関係する。そのための実践上のポイントは、次のとおりである。

【実践上のポイント】

- 本人との良好な信頼関係を基礎として、本人の主訴を引き出すことが大切である。
- 言語によって語られることだけでなく、時間や空間を共有し、表情や態度等、非言語の情報も含め、相談支援員が観察したり、感じ取ったことも取り上げていくことが必要となる。
- 本人のこれまでの生活や現在の生活に関わってきた人たち(親族や近隣、関係機関等)からも必要な範囲で情報収集し、多面的に本人を理解していくことが必要となる。
- 社会的に逸脱した行動があったり、本人を取り巻く関係者と本人との認識にズレがある等の場合であっても、本人の側に立って、「なぜそうなるのか」、「本人は今どのような認識でいるのか」という理解に努めることが大切となる。

■本人を主体とした支援に向けた取り組み

自立相談支援機関による支援は、支援者が課題を解決するために取り組むのではなく、本人が主体となって課題に取り組むことを支援するものである。このような方向性での支援を検討するための実践上のポイントは、次のとおりである。

【実践上のポイント】

- 相談支援員は、本人が自分自身や自分の置かれている状況を直視し、理解を深めることができるように支えることが重要となる。
- 本人が、家族・親族や近隣地域等と自分との社会関係に気づき、活用できる社会資源等を含めて自分を取り巻く環境に対する認識を深められるようにする。
- 本人自身が自分の長所や強み(ストレングス)に気づくことができるようにする。
- 課題解決のプロセスにおいては、本人が困りごとに気づき、それを表明し、周囲がその解決に協力することが基本となる。さらには、多様な社会関係のなかで、本人が役割を見出していくことの積み重ねや体験の獲得が重要な意味をもつ。自立相談支援機関の目的は、その後の人生において、本人が周囲との関係を維持しながら、困窮や孤立に陥る前に適切な支えを得ることにより、自立した生活を送ることができるよう支援することにある。

■環境への働きかけとネットワークを活かした支援

生活困窮者への支援においては、本人の主体的な取り組みを支援するだけでなく、本人と環境との関係を調整して改善すること、また地域の社会資源等のネットワークを活用した支援とすることが求められる。このような支援を展開に向け、プラン策定時に留意すべき実践上のポイントは、次のとおりである。

【実践上のポイント】

- 本人と家族・親族や近隣地域等との社会関係について、現状を把握するとともに、本人が今後の人生において孤立することなく生活していくことができるよう、相談支援員が媒介する役割を果たしながら、良好な関係形成のプロセスを支える視点を持つ。
- 本人だけでなく、家族が複合的に課題を抱えることも多いことから、家族間の関係性や影響の与え方、課題相互の関連性に留意しつつ、本人への支援とともに家族支援についても視野しながら、関係機関と連携して家族全体への包括的な支援体制を築いていく。
- 関係機関の特徴や役割を適切に理解したうえで、プランのなかでは、協議を重ね、調整を図りながら、自立相談支援機関だけでなく関係機関がどのような役割を果たし、どのように支援するかを示す。その際、本人を含めた当事者が中心となったプラン策定を関係者間で意識することが重要となる。
- 本人を取り巻く民生委員やボランティア、近隣、ピアサポート等のインフォーマルサポートの担い手たちが、本人をどのように認識しており、本人にどのようにアプローチできるかを想定し、本人との関係を築き、広げていくための具体的な道筋を検討する。

休憩 15分

「終結」の意味について...

Q14

どのタイミングで、支援の「終結」と判断すればよいでしょうか

A**基本的な考え方**

「終結」は、生活困窮者自立相談支援制度における相談支援のゴールをいかに設定するかということと深く関連しています。したがって、制度の理念が具体的に反映されることとなります。本制度における「終結」のかたちは多様であり、個々の状況に応じた「終結」のあり方を追求していくことが求められます。また、地域における福祉サービスや多様な担い手に支えられながら地域生活を送ることも重要な「終結」のあり様であることを認識することが大切です。

回答

制度上の「終結」の説明としては、①生活困窮の状態が改善し、設定していた目標を達成の目途が立った場合、②生活困窮の状態から脱却できていないものの、大きな課題がある程度解決し、一旦支援を終了してもよいと判断できる場合、③本人からの連絡が途絶えた場合、の三つが示されています。

しかしながら、実際にはそう簡単に終結の判断がつかないことが多いことも事実です。したがって、機械的に終結に導くのではなく、「終結」と判断するタイミングは、支援のプロセスの中で導き出されるものという認識が大切です。つまり、本人と一緒にプランを作成し、モニタリングをしながらプランの見直しを重ねていくという作業を繰り返し、やがて「終結」に至るという展開が重要な意味を持つということです。このプロセスなくして、「終結」を見極めることはできません。

生活困窮者自立支援制度における「終結」のかたちは多様であり、個々の状況に応じた「終結」のあり方を追求していくことが求められます。それは、本制度においては、就労自立のみならず、日常生活自立や社会的自立といった多様な自立のあり方が強調されることと深く関連しています。多様な自立を模索することによって、「終結」の幅が広がります。一般就労だけがゴールではなく、また生活課題の解決(解消)だけがゴールではないということです。すなわち、様々な生活課題をもちながらも、地域で多様な担い手によって支えられながら生活していくという地域との接点が強調されることとなります。「終結」とは、支援者として今後本人と接点を持たないという意味での終結ではなく、広い意味での見守りを継続していくことを意味する場合もあります。

「終結」のあり方やタイミングが支援のプロセスの中で導き出されるということは、「終結」のあり方に支援の本質が色濃く反映されることを意味しています。つまり、本人がどこで、誰と、どのような暮らしをしたいのかについて、本人自身はその答えを見出せるように支援することが問われるからです。本人の生活であり、また本人の人生である限り、それを支援者が勝手に決めることはできないことなのです。

したがって、本人が決めるプロセスに働きかけることが支援者に求められます。地域で多様な担い手によって支えられながら生活していくという視座のさらに根底には、この支援のあり方が問われることとなります。

ワンポイント・アドバイス

「終結」をめぐるっては、多様なアプローチが可能になります。ここでは2つの取り組みを示しておきます。

○支援を振り返る

支援の成果や課題の達成状況について、相談者とともに支援を振り返る作業ができるとよいでしょう。相談者も支援者も互いの労をねぎらい、これからあるべき方向について再確認する機会になります。

○支援調整会議にはかる

支援調整会議の場で、支援の開始から現在までの経過と成果を確認し、終結後のフォローの必要性和具体的な終結時期を確認するとよいでしょう。その後は支援頻度を徐々に下げつつ、状況をみながら自立した生活を営んでいく体制に入ることを視野に入れます。

参考資料

『自立相談支援事業の手引き』 pp. 49-51 17. 終結

http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyoku-Shakai/01_jiritsu.pdf

事例シート4 プラン評価・終結

【ワーク】

あなたは、事例のどの部分に注目して「終結」と
みなしましたか。

(事例シート4)

相談支援員がポスティングの仕事内容について説明すると、イチロウさんは話に関心入り、「やってみようかな...」と静かにつぶやいた。相談支援員が、早速ポスティングの事業所に電話を掛けてイチロウさんに取り次いだところ、翌日に採用面接を取り付けることができた。

翌日、夕方になってイチロウさんが相談支援事業所を訪れた。面接帰り、あいさつに寄ってくれたようである。着古したYシャツにネクタイとスラックス姿。髭を剃り見違えた風貌である。「来週から研修も兼ねて近所をポスティングして回ることになりました。こちらの事業所も配布エリアに入っているんです」という。来週の給料で携帯電話を買うことも予定しているらしい。母に相談したところ、「就職活動のお金くらい出してあげるのに」といわれようだが、「自分の力で何とかしたい」と考えたようだ。

○2カ月が経過したころ、イチロウさんからこんな報告があった。ポスティング会社の社長から、「専属スタッフになってほしい」と声がかかったようだ。「せっかく社長が声をかけてくれたから、やってみようと思って...」と誇らしげに話す。ポスティングエリアも全て頭に入っているようで、「効率よく回るにはどうすれば良いか、いろいろ試しているんです」という。休日に配布エリアを回り、効率よい配布ルートを開拓しているという。

○さらに3カ月後、正社員ではないもののマネージャーという立場になった。収入は、月に12～13万円程度。節約のために弁当を持参することもある。時には、母親の分も作るようだ。「ほんの少しですが、貯金もできるようになりました..」と笑顔で話す。「母親も応援してくれているので、頑張りたいと思います」という。相談員が「ずいぶん日焼けしましたね。とっても男らしいですよ!」というと、照れながらニヤリと笑った。

○マサ子さんには担当のケアマネジャーがかかわり、週に2回デイサービスに通うようになった。毎朝、「いってらっしゃい! 今日頑張ってるね!」と声をかけているという。「行ってきます!」という声を聞くのが、今は何よりも嬉しいという。

○さらに半年が経過しようとする頃、マサコさんから相談を受けた。先月、マサコさんの誕生日にイチロウさんがプレゼントをくれたという。「花束だったんですけどね、息子の気持ちが嬉しくて...」とマサコさん。「そのお返しを何にしようか、相談に乗ってほしい」という。

○マサコさんの骨折が完全に回復していることを確認した相談支援員は、こんな提案をした。「そのプレゼント、一緒に選びに行きませんか?」と...

まとめ...

①～③は、どの程度理解できましたか？

「相談支援の展開と視点」のポイント

- ①相談支援の展開について基本的な流れ、構図を理解する。
- ②実践(事例)を通して支援の視点を理解する。
- ③本事業における終結を理解する。

そして最後にもう一度...

<研修全体の目標>

- ①基本を学ぶ
- ②学んだことを実践できる
- ③伝達できる(講師になれる)